

2006 年度

<p>科目名</p> <p style="text-align: center;">図書館概論</p>	<p>対象学科・学年</p> <p>文学部日文1回生 教育教福1回生 文学部英米1回生 人間人社1回生 文学部教福1回生 文学部文財1回生 文学部コミ1回生</p>	<p>担当者</p> <p style="text-align: center;">前川 和子</p>
<p>授業テーマ</p> <p>図書館とはなにか、図書館を多面的にとらえ、図書館の理解を深める。</p>		
<p>授業の概要と目標</p> <p>学生にとり図書館は、レポート、論文作成、教養や知的好奇心を満たす、なくてはならない場所である。市民にとっても公立図書館は、様々な情報要求にこたえる場所として必要不可欠な存在である。このような図書館について、館種、関連法規、図書館政策など、図書館司書課程の基礎として、あるいは国民の教養として知っておかなくてはならない。図書館を取り巻く現在の問題についても解説する。</p>		
<p>評価方法</p> <p>期末試験、小レポート、出席をあわせて、評価する。</p>		
<p>テキスト</p> <p>『図書館概論 四訂版』（JLA 図書館情報学テキストシリーズ；1）</p>	<p>著者</p> <p>塩見 昇</p>	<p>出版社</p> <p>日本図書館協会</p>
<p>参考書</p> <p>『図書館学概論』（新図書館学シリーズ；1）</p>	<p>著者</p> <p>前島重方ほか</p>	<p>出版社</p> <p>樹村房</p>
<p>授業スケジュール・内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 図書館の意義 2. 図書館の法的基盤 3. 図書館法、図書館関係法規 4. 図書館政策 5. 図書館の種類1：国立国会図書館 6. " 2：公立図書館 7. " 3：学校図書館 8. " 4：大学図書館 9. " 5：専門図書館 10. 図書館を育てたひとりと：米国の場合 11. " ：日本の場合 12. 図書館についての住民運動、文庫活動 13. 図書館関係団体：図書館協会、図書館関係学術団体など 14. 海外の図書館：米国、イギリス、中国など 15. 図書館学、図書館情報学 		